

第七節 對 露 交 涉

四二三 明治十三年九月四日 柳原駐露公使ヨリ 井上外務卿宛

條約改正交渉開始ノ件

別信 第一號

十月二十八日到

(前略)

八月廿三日東京發ノ暗號電信廿四日午前接手左ノ通解釋致候

柳 原 宛 井 上

先ツ露政府ニ於テ我改正案ヲ彼ノ公使ヲ經由シテ請取タルヤ否ヲ問ヒ然ル後談判ヲ始ムヘシ若シ彼レ未タ請取ラサル時ハ其時迄待ツヘシ」修正シタル草案寫ヲ去ル七月十六日貴下ヘ送致セリ

(中略)

一、條約改正之義ニ付テハ先頃(八月十九日頃)長田書記官亞細亞寮權頭メルニコフ氏ヘ面會ノ節承及候處未タスツウエ氏ヨリハ何テ不申越旨答有之候尙其後八月廿四日閣下

間位ニハ御見聞相濟中間敷哉

彼 中ニ込ミ入リタル箇條モ有之様存候ニ付連モ一周間ニハ熟讀難致ト存候

我 條約改正案書類悉ク御熟讀モ相成難カラン然レトモ本文ノ大意ヲ御通讀ニ相成候ハ、今般ノ主意大略御了解エモ可相成ニ付右大意御通閱ノ上拙者ヨリ猶其事情ヲ陳述致度候間可成一周間内外ニ御通閱御面晤ノ日時御報知被下タシ、

彼 成程御意見ノ通りニモ有之候間可成速ニ通閱致シ追テ日時御報知御面晤可致様盡力可致候然シナカラ自然少シ遲延致シ候モ難計此段御承知被下度候

我 承知仕候

右ニテ畢ル握手別ヲ告テ歸ル

右ハ眞ノ大略ニ有之候就テハ一周間内外ニ於テ拙者ヨリ御内達ノ趣意縷陳可致候トモ推察スルニジヨミニ一氏一存ニテハ返答モ難相成且方今避暑ノ時ニ際シ皇帝且太政大臣コルチャコーフ并ニ外務卿代理ギリス氏モ皆遠足中故夫々ヘ照會ノ上返答可有之義ニ付随分今後暇取可申存候
一、別信ニモ番號ヲ付シ候様可致則今便ヨリ相始メ第壹號

御電答ノ趣承知致候ニ付三十一日拙者外務省ヘ出頭外務卿代理ジヨミニ一氏(當時ギリスハ帝ニ扈從シ南方ニ在リ)ニ面會其談判大略左ノ如シ

ニ面會其談判大略左ノ如シ

我曰貴國我國トノ條約改正期限ハ既ニ過キ去リタルヲ以テ

是レ迄數々開談致候義モ有之候處未タ結果ヲ得ス今般

我政府ニ於テ彌々改正ノ目的ヲ一決シ改正案ヲ起草シ

既ニ我外務卿ヨリ貴國公使ヘ相渡シ候答ニ付右ハ既ニ

貴省ヘ相達シタルヤ否

彼 其草案ハ四五日前スツウエヨリ到着シタリ今現ニ大藏

卿ヘ廻シ置キタリ故ニ余ハ未タ一見セス

我 般改正草案ノ趣意直ニ貴國政府ヘ委曲縷陳致度ニ付テ

ハ何卒御見聞ノ上再ヒ參上右事情陳述可仕候間御見聞

濟次第御報知被下タシ

彼 諸併シナカラ中々大部ノモノニモ有之且拙者モ公務繁

多旁急ニハ見聞シ難カラン

我 我政府モ今般ノ改正ヲ速ニ御協議致度何卒遅クモ一周

ト致シ以後號ヲ追ヒ相認メ可中候間此段御承知可被下候

明治十三年九月四日

特命全權公使 柳 原 前 光

井上 馨 殿

四二四 明治十三年九月十二日 柳原駐露公使ヨリ 井上外務卿宛

改正條約案ニ付談判開始ノ件

附屬書 十三年九月十日柳原公使露外務卿代理談判筆

記

別信 第二號 十一月六日到

別紙ヲ以テ左ノ條件申進候御通閱有之度候

一、條約改正談判ノ事

一、清露關係ノ事

一、丁抹國公使兼勤ノ事

一、ラムチャンドル書翰ノ事

一、勳章ノ事

一、魯公使スツルウエ氏ヘ御謝辭ノ事

明治十三年九月十二日

在魯國

特命全權公使 柳 原 前 光

外務卿井上馨殿

一、條約改正ノ義ハ先便申進候通り去月開談ノ後外務省ヨリ報知ニ依リ本月十日出省致シ候處外務卿代理ジヨミニ一氏ニ面會其談判ノ始末ハ別冊ノ通ニ有之候間御閱見可被下候右談判ノ景狀ニ付考ルニ税目改正ノ事ハ其大意ニ於テ異議無之到底露政府ハ日本ヲ賛成シ他國ヲモ誘導シテ可成日本ノ望ヲ遂ケシメント欲スルノ主義充分相見ヘ申候尤裁判上ノ事件ニ付テハ聊カ英國ノ景況ヲ伺フ政策ニモ可有之歟單ニ正理ヲ以テ處スヘキノ語ニ止リ確タル返答無之今一段論究可致哉其存候ヘトモ彼ノ口述ニ都テスツルウエ氏ヘ全權ヲ委託シ實地ニ就テ各條論談可爲致旨ニ有之候上ジヨミニ一氏ハ臨時ノ外務卿代理ニシテ當今太政大臣外務卿代理モ皆不在ニテジヨミニ一氏一存ニテハ明白ノ返答モ難致景況ニ候加之閣下六月十日附ノ貴翰ニ談細密ニ入ラスシテ速ニ全權委任ヲ撰定セン事ヲ要求セヨトノ御主意ニ付速ニ全權委任ヲ撰定セン事ヲ要求候處都合克承諾シテ二週間後ニハ必ス彼ヨリ愈々全權派出スル事ヲ報知可有之ト存候尙其

ル最初ハ往年我國ヘ渡航セラレタル海軍將タル「コント、ブーチャチン」氏ト我政府ノ委員ト調印セラレタルモノナリ其後貴國代理公使ビュヅソフ氏復タ條約ヲ結ヒ幾分歟ノ取捨ヲ加ヘ現在履行セリ是等ノ條約十ヶ年ヲ過キナハ改正スヘシトノコトナリ爾來數々星霜ヲ經タル後我政府ハ各國訂盟ノ政府ニ告ケ條約改正ヲ議セント欲シ既ニ余カ先任榎本武揚一昨年外務卿代理ギルス氏ニ改正ノ主意專ラ貿易税ニアル事ヲ陳述セリ其時恰モ我國駐在貴國公使スツルウエ氏モ當府ニ在リテ先任ト示談有之終ニギルス氏ヨリハ榎本ニ書通アリテ我國所望ノ主義諾了ニ及ヒ東京駐在ノ貴國公使ニ必用ノ指令ヲ與フヘシト迄ニ記送セラレタリ

彼、御陳述ノ旨承了ス過日スツルウエヨリ差越セル貴國外務卿ヨリノ改正案數通ヲ得税目等ノ事ニ至リテハ之レヲ大藏省ニ轉致セシ處素ヨリ細目ハ實地ニ當ラサレハ明瞭ヲ盡ス能ハサレトモ大主義ニ至リテハ別ニ異見モナキ趣ナリ

我、我外務卿ヨリ東京駐劄貴國公使スツルウエ氏ヘ通シタル上余ヘモ條約改正ニ付右ニ調印スヘキ全權ヲ譬ヘハス

節電信ヲ以テ可申進積リニ候英獨佛奧國ノ都合ハ如何可有哉難計候得共愚案ヲ以テ考ルニ判然全權ノ命ヲ下シ今般御談判ニ可到ハ恐ラクハ魯國其第一ニ居リ日本政府ノ大意ヲ賛成候良友ニ可有之尙閣下ヨリ十分スツルウエ氏ヘ御談判有之度企望候尙今後景況見計瑞典ヘ出行謁帝ノ後條約改正事件開談ノ積リニ有之候

(後略)

註 「閣下六月十日附ノ貴翰」ナルモノ見當ラズ

附屬書

十三年九月十日柳原公使露外務卿代理談判筆記

條約改正關係談判筆記大略

明治十三年九月十日第二時外務省ニ到ル

全權公使 柳 原 前 光

外務卿代理 ジヨミニ一

二等書記官 長田 鈺太郎

傍聽筆記

亞細亞寮課長 ブロツセ一

五ニ一禮畢リテ座ニ着ク雜話終テ後應接如左

我、閣下モ知ラル、如ク貴國ト我國ト和親條約ヲ取結ヒタ

ツウエル氏ナリ又ハ御指示ニナルヘキ者ニ御附與アラシタ事ヲ乞フヘシト報知アリタリ仍テ全權ノ人御定メアリタシ

彼、右ハ述フル如クスツルウエヘ必用ノ指令ヲ與ヘアルノミナラス同人ハ本省ノ主意トスル所モ明知シ貴國ノ情ニモ通シラレハ無論同人ヘ全權附與ノ運ヒニナルヘク即チ今日ニモ行在所ニ在ルギルスヘ其旨申立ナハ凡ソ二週間後ニハ確答アルヘケレハ其節ハ早速閣下ニ御通知可申候我、辱ク存候屈指閣下ノ御返答ヲ可待候

彼、前述ノ如ク當政府ニ於テハ海關稅ノ事ニ付テハ大綱ハ異議ナク且一ツハ貴國ノ利益ヲ慮リ二ツハ友誼ヲ以テ米利堅伊太利等ノ如キ略我政府ノ主義ニ同意セント傾クヘキ國ハ誘導スヘキヨウ盡力ノ積リナリ

我、海關稅ノ事ニツキ貴國ハ我政府ノ所望ニ御同意ナサレルノミナラス同盟他國迄ヲ誘導シ以テ我國ノ主意ヲ擴張セラル、ヨウニト迄貴政府ノ御厚意ハ余ニ於テ大ニ謝スル所ナリサレトモ今余カ陳セントスルモノ皆ニ税目ヲ改正スルニ止マラス和親條約改正ハ勿論ナレトモ更ニ裁判權ノ儀ニ付キ閣下ニ述ヘ置カント欲スルモノアリ請フ暫

ラク余カ言ヲ聽納アラン事ヲ

彼、謹シテ拜聽セン

我、抑萬國公法上ヨリ裁判權ノ事ヲ試ニ述ヘハ他國ノ臣民
一ト度自國ノ境ニ入ルヤ其在住國ノ法律ヲ遵奉スルハ論
ヲ俟タス然ルニ東洋諸國ニ於ケル治外法權ト稱スル一種
特別ノ權アリテ此公法ニ從ヒ裁決ヲ施コス能ハサルナリ
是閣下ノ知ル所ナリ日本ト外國トノ現行條約ヲ實際上ヨ
リ論シ見レハ行政上幾多ノ不都合ヲ生シ各國臣民ノ裁判
各種ノ裁決ニ涉リ區々トナルノミナラス其手數言語ニ盡
シカタシ故ニ則今我政府カ各國訂盟國ニ向テ裁判權中ノ
幾分歟ヲ我レニ獲ント欲シテ之レヲ需ムルハ畢竟實地經
驗上ヨリノ所望ニ出タル筋ニシテ治外保權ヲ減却セント
望ムノ意ナラス彼我交際ノ便宜ヲ慮リテコ、ニ出ルナリ
彼、御陳述ノ旨理アリ去レトモコノ種ノ儀ノ如キ今般改正
案ヲ閱シ逐一其條ヲ檢查シ十分ニ考慮ヲ用ヒサレハ詳細
ノ御返答爲ス能ハサルナリ且東洋諸國ニ於ケル概シテ云
ハ、先ツ英國カ第一關係ノ多キ國ナリ同國政府ノ主意ハ
何レニアルカ何ニ致セ改正ノ一條特ニ裁判權等ノ事ニ於
テハ猶同政府等ノ模様ヲ打合セ同轍ニ出ル方穩當ノ所分

事緩優ニシテ禁錮スル事ナシ然レトモ若シ法ヲ犯スモノ
アラバ是ヲ取押ヘ所置スルニ各其本國ノ法度ヲ以テスベ
シ

彼、(此時顔色驚キタル如シ察スルニ彼
(ノ意外ニ出テ膽ヲ冷シタルガ如シ)

然ラン左レトモ談判是等細末ノ事ニ至ラサル方ナルヘシ
右等モ亦實地ニ就キ協議上ニ於テ論定スルモノナラン即
チスツルウエガ擔任スヘキ一條ナリ

我、余素ヨリ前ニ述ヘタル事ハ細末ノ區域中ニ入ラント欲
シテ陳シタル事ニテハ無之貴國ト我國裁判權ノ事ニツキ
他國ト結ヒタル條約箇條ノ差違アルヲ證セントシテ其例
ヲ舉ケタルナレハ閣下願クハ余カ陳述ノ意ヲ誤解ナカラ
ン事ヲ

彼、幸ニ貴意ヲ煩スナカレ御説明ノ趣詳悉セリ

我、以上開陳セシ所閣下明瞭ニ了解アラレ余ニ於テ欣喜ノ
至リナリ抑今回條約改正按條件ハ兩國全權委員ノ議定ス
ル所ニシテ閣下ト當地ニ於テ改正談判ヲ爲シ之レノ局ヲ
結フト云フニアラサレハ談細目ニ涉ラサレトモ我國政府
主意ノ在ル所ハ我所望ニ御同意アラレ條約調印ノ全權ヲ
帶ル人ヲ定メラレ税目及改正草案ニ在ル裁判權ノ部分ヲ

ナルヘケレトモ正理ヲ曲クル能ハサルハ自然ノ道理殊ニ
貴國トノ交誼ヲ重スル我國ナレハ間接ニ心配シテ可成御
希望ニ應スルヨウ勉ムヘシ

我、貴諭ノ如ク東洋諸國ト關係ノ大ナルモノハ成程英國ナ
リ乍去貴國ト我國ト結ヒタル條約中裁判上ニ於テハ他外
國ト結ヒタル箇條ト異ナルモノアリ其故ハ萬一貴國人我
國ニ於テ犯罪セルモノアルトキハ之レヲ貴國ノ領事廳ニ
於テ裁決ヲ仰カシムレトモ亦我國人犯罪者アルトキハ之
レヲ貴國ニ駐在セル我官廳ニ於テ所分スト云明文アリ、
之レハ治外保權ヲ丸テ入替タルモノ、如シ他訂盟國ニ於
テハ然ラス我國在留外國領事等ノ判スル所ニシテ他外國
ヘ我國人在留シテ罪科ヲ犯スモノアラハ之レヲ出張先ノ
我官廳ニ送致セスシテ地方裁判所ニ於テ其國法ニ從ヒ之
レニ判ス故ニ貴國ト他外國ト我犯罪人ヲ扱フ差違即チ上
陳ノ如シ

前此ノ此語ヲ發セシハ日魯條約安政元年十二月廿一日ブーチャ
チン川路簡井調印條約第八條ノ文ニ據ルナリ拔萃左ニ錄ス

第八條

魯西亞人ノ日本國ニアル日本人ノ魯西亞ニ在ル是ヲ待ツ

我所望通りニ御諾了アラン事ヲ欲スルニ外ナラス冀クハ
貴政府ニ於テコノ希望ヲ贊成アリテ以テ兩國交誼ノ益厚
キヲ加ヘン事ヲ

彼、委細承知イタシ候

右ニテ畢ル

四二五 明治十三年十月十七日

柳原駐露公使ヨリ
井上外務卿宛

露國政府改正案ノ主義ニ同意ノ件

附屬書

十三年十月五日柳原公使露國外務卿代理談判

筆記

別信 第五號 拔萃

條約改正談判一件ハ既ニ電信ヲ以ノ申進候通り露政府ニ於
テ今般改正ノ主義ニ同意致候此同意トハ裁判事件トカ稅則
トカニ限ラス改正案ノ大主義ヲ贊成スル儀ニシテ其談判概
略ハ別紙書取ニテ御承知相成度右ニ付今般スツルウエ氏ヘ
談判スヘキ必要ナル訓令ヲ與ヘ談判整頓ノ上一應本國政府
ヘ報告シ然ル後調印ノ委任ヲ附與スヘキ旨ニ有之此權ヲ兩
段ニ致シ候ハ當政府ハ條約改正實際ノ事件スツルウエ氏ノ

熟知ニ如カサルヲ以テ先ツ談判ノ權ヲ與ヘ改正按整頓ノ上
政府之ヲ檢閲シ調印ノ權ヲ附シ候目的ト被察候實地ニ於テ
不都合無之ト存候且日本條約改正ノ儀ニ付自然各國ヨリ露
政府ヘ問合有之候節ハ其主義ニ同意ノ旨ヲ相答ヘ魯國ノ同
意ヲ以テ自カラ他國ヘ影響セシメル積ニ付日本政府ニ於テ
モ此邊相合可居外務卿代理ジヨミニ一氏申居候甚タ以テ好
都合ト存候此上閣下スツルウエ氏ト御協議有之十分御成功
企望致候

明治十三年十月十七日

在露國

特命全權公使 柳 原 前 光

外務卿井上馨殿

附屬書

十三年十月五日柳原公使露國外務卿代理談判筆記

明治十三年十月五日魯國外務省ニ於テ外務卿代理「バロン
ジヨミニ」ト條約改正一條談判概略筆記

柳 原 前 光

ジヨミニ

ニ條約改正談判ハ東京ニ於テスルニ依リ右ノ全權ヲ帶フ
ル者ヲ指定アリタシト申入レ又余ニモ當地就任ノ上ハ前
述ノ旨意ヲ貴國政府ニ陳述スヘキヲ以テセリ左スレハス
ツルウエニ附與セラルヘキ訓令ハ以テ我外務卿ト開談議
定スルノ効アルモノニシテ即チ條約談判ノ全權ト認メ相
違ナキヤ又必要ノ訓令ト云フハ取モ直サス條約談判全權
ト云フ文字ナリ左様ニ心得テ可然歟

彼、我方ニ取リテ如何ニモ然リ抑一事件生出シ譬ヘハ税ノ
如キ事ニツキ我大藏省官吏ヲ他國ヘ特派スル事アルト
キハ其者ニ調印ノ全權迄モ附與スル事モアレトモスツル
ウエノ如キハ既ニ我國ノ特命全權公使ニテ貴國ニ駐在ス
ル事ナレハ又特別派出ノ官吏トモ異リ右ヘ必要ノ訓令ヲ
附與スレハ開談議スル權力ヲ有スルモノトス扱コノ條
約改正ノ事タル定テ他訂盟外國ニモ貴政府ヨリハ御申入
レニナリシナランカ其模様ハ如何ナルヤ

我、然リ而シテ皆各政府ノ許ニ駐在セル我公使ヨリ其大意
ヲ申シ入レ夫々全權委員ヲ定メラル、答ナリ然レトモ未
タ其景況ノ報知ヲ得ス察スルニ亞米利加合衆國ノ如キハ
從來交際ニ於テ公平ヲ表スレハ先ツ我請求スル所ニ同意

通 譯

長 田 鈺 太 郎

彼方筆記者

ブ ロ ツ セ ー

一、禮畢リ

彼、此程御談話イタシタル貴國ト條約改正一條ニツキ「リ
ワジャ」離宮ヨリ返答ヲ得タルニ貴國企望セル所ノ件々
即チ條約改正ノ大主義ニ我政府ハ異論ナク且スツルウエ
ニハ必要ノ訓令ヲ與フヘキ事ニ決シタリ

我、了解セリ去レトモ其訓令ニ基キスツルウエハ我外務卿
ト談判ヲ開キ條約書ニ調印スルノ權ヲ有スルモノナルカ
彼、スツルウエハ附與スヘキ訓令ハ即チ貴國外務卿ト商議
スヘキノ令ニテ右條約ヘ調印スルノ全權ハ今ヨリ與フル
ニ及ハス其故ハ同人貴國外務卿ト十分談判ヲ遂ケ條約書
就成ノ上本國政府ニ之レヲ致シタル以上ニテ調印全權ヲ
別ニ同人ニ附與スルノ手續ニテ又コノ全權ハ當地ニ於テ
調印スルト決スレハ即チ閣下ト外務卿トスル譯故其時ノ
模様ニツキテ所分アルモ妨ケナキ事ナリ

我、去レトモ當七月中我外務卿ヨリ書簡ヲ以テスツルウエ

ナラン乎其他ノ國ノ模様ハ未タ發揮ト分ラサレハ御即答
相成リカタシ

彼、當ニ合衆國ノミナラス伊國モ別ニ異論ナキヤニ承知セ

リ

我、然リコレモ異論ナカルヘシト察ス

彼、貴國條約改正ヲ談判スルニ當リ他ノ國ニテ同意セス齟

齬ヲ生スルトキハ如何ナサレヤ

我、東京ニテ各國委員ヲ集會シ評議スル故齟齬ノ患ナシ若
萬一到底不同意ノ國アラハ同意ノ國トノミ先ツ改正ノ結
約スル方便モアルヘシ

彼、前述ノ如ク我政府ニテハ貴政府ノ御所望ノ改正一條ニ
ツキ大主義ハ同意ナレハ或ハコノ事ヲ以テ貴國訂盟他國
ニ幾分歟ノ影響ヲ及ホス事モアラン又他國ヨリ我方ニ對
シ問合セモアラハ我之レニ答フルニ改正一條ハ日本政府
ノ欲スル所ニ大主義ハ同意ナリト答フル覺悟ナリ

我、厚意深謝ス尙閣下ニ尋問スルハ閣下ノ大主義ニ同意ト
仰セラル、ハ條約改正按ノ税則ニ御同意歟又ハ裁判事件
ヲ指ス歟將タ全體ノ主義ニ御同意ナルヤ

彼、今般條約改正案ノ全體ニ對シ大ナル部分ノ主義ニ同意

ヲ表示スルナリ

我、判然セリ扱條約改正談判委任ニ付必要ナル訓令ハ是ヨ
リスツルウエヘ達セラル、ヤ

彼、近日スツルウエヘ達シ遣スヘキ筈ナリ

我、本日御陳述ノ趣本國へ通知スヘシ余ハ兼任國タル瑞典
へ不日出立スヘキ筈ナレハ右留守中ハ長田ヲ代理公使ト
シテ置ク積リナレハ此段豫メ陳述致置クナリ尤出立時日
決定次第追テ書簡ニテ貴意ヲ得ヘシ

彼、承諾セリ

右ニテ畢ル

四二六 明治十四年一月二日

柳原駐露公使ヨリ
井上外務卿宛

條約改正ニ關スル露外務卿ノ談話報告ノ件

十四年別信 第一號

別信ヲ以テ左ノ件々申進候條御通関有之度候

一、機密信第二十號第廿一號報告ノ事

一、清露關係暗號電信ノ事

一、會紀澤面談ノ事

旨ニ付其趣ヲ以テ返答ニ可及積リナリト此段爲御參考申進
候也

四二七 明治十四年十月九日

柳原駐露公使ヨリ
井上外務卿宛

我改正案ニ對スル露國ノ意向及各國ノ態度ニ關スル
件

機密信 第廿八號

條約改正事件ニ付當政府景況ハ昨年來追々致申啓候通ニ有
之扱本年七月中旬伯林ニテ青木公使ニ面晤シ同國模様致尋
問候處同政府ハ中途來漸我主意ヲ賛成周旋スルニ傾キ候得
共未タ判然タル確答無之趣ニ候其後海牙ニ到着シ蘭國景況
ヲ開クニ其大要タル同國ハ我ト舊交アレハ盡力致度旨趣ニ
テ或ハ海牙ニテ改約豫談會議ヲ開ク等ノ立按ナトモ有シ
ナレトモ詰リ小國故各大國ノ影響ヲ親ヒ決定候外無之由ニ
候然ルニ同國滯在中(八月也)森公使ヨリ内信ヲ得タルニ
該改正事件ニ付別紙譯文抄寫ノ通り英國外務卿ヨリ森へ答
書ヲ贈レリ右ハ森ヨリ早速電報及書信ニテ巨細閣下へ具申
致候義ト存候魯國ハ最初來成ルヘク我主張ヲ賛成スル運ニ

一、當國外務卿代理ギリス氏面談ノ事

明治十四年一月二日

特命全權公使 柳 原 前 光

外務卿井上馨殿

(前略)

一、十二月卅日當國外務卿代理ギリス氏へ面會ノ序過般ジ
ヨミニー氏へ條約改正事件談判ノ節大主意御同意ノ段満足
致候趣陳述致候處ギリス氏曰ク當國ニ於テハ貴國條約改正
ノ主義ヲ賛成スルノ主意ニ有之就中海關稅改正ノ如キ貴國
現今財政困難ノ折柄之ヲ拒ムノ理由無之但シ今般日本ノ御
主意貫徹スル事ハ甚タ難カルベシ就中英獨兩國ノ如キハ只
自己ノ利益ノミヲ顧テ之ヲ拒ムヘシト信ス尤公用多忙ニ付
自分ニ於テ未タ改正案充分ニ熟讀スル間合無之候ヘトモ彼
ノ法權ノ一條ニ至テハ原案頗ル不備ナルヲ覺エ遺憾ニ考フ
是等ノ事今般ノ改正ヲ拒ム者ノ口實ト爲ルヘシト又同時佛
國ヨリ日本條約ノ事ニ付當國ノ意見問合ノ義ギリス氏へ尋
問ノ處同氏ノ言ニ未ダ返答不致候へ共此義ニ付テハ既ニ先
般モ陳述致置候通り當政府ハ日本ノ大主義ニ同意ノミナラ
ス之ヲ以テ幾分カ他國ノ同意ヲモ助成セン事ヲ欲スルノ主

候得共到底東洋ノ貿易其他關係ハ英國第一位ヲ占ルヲ以テ
仍ホ其方嚮ヲ窺ヒ全然挺身シテ我請求ニ應スル事ハナサマ
ル趣意ト考へ候先般外務卿代理ギリス氏ニ面晤ノ際寸話有
之其口氣ニ曰ク他國未タ貴國ノ裁判權ニ服セザルニ先チ獨
リ我國ノミ之ニ從フ事ハ難シ又今回條約草案ハ修好ト通商
ト分別シタレトモ魯ニ於テハ波斯トノ條約ヲ除ク外此體裁
ナシ成ルヘクハ之ヲ合併シタシ又改稅ノ主義ハ其大綱ニ於
テ異議ナシトノ趣ニ候然ルニ其談話間他國使節入來等ニテ
紛紜ノ際詳細談話ノ遑モ無之上不遠ストルウエ氏へ訓令致
度ニ付尙其前ニ方リ該事件熟議ノ爲メ彼ヨリ日ヲ報告シ再
談可致旨ニ候仍テ屹度其再談ヲ乞ヒ候旨申置分手候爾後再
談ヲ開クヘキノ報無之遷延致居リ頃今ハ專ラペトルゴフ
(地名)離宮近傍ニ避暑邂逅歸府致候位ニ候右遷延ノ事情
ハ本年別信第廿三號(六月廿三日)ヲ以テモ要略既ニ内啓
仕置致而シテ其實タル魯ハ最初來賛成ノ主義ヲ執リ候故不
得止外可成改約事件ニ付異議ヲ容ルル事不忍事情ト察シ候
前述ノ義ハ眞ノ寸話口氣ニテ且再談可致約束ノ餘地有之候
得共茲ニ具申候然ルニ英外務卿森へ答書セシ文中ニ曰ク歐
洲各國皆既ニ左袒セリト明記シ有之就テハ各國一致ト見認

メサルヲ得ス之ヲ要スルニ東洋ニ對スル政略ハ歐洲各國常ニ合縱シ而シテ其權英ニ在リ故ニ今般ノ儀モ專ラ英國ノ峻拒首唱ニヨリ各國之ニ響應シ魯國賛成ノ主意獨逸和蘭ノ周旋モ其效ヲ見ス遂ニ英國ノ目的ニ着着候事ト存候併シナカラ仍ホ通商上改稅事件ヲ商議スヘキ餘地ヲ存セシハ往年米國ノ改約又魯國ノ我主義ヲ賛成スル等ノ儀多少其原因ヲナシ候事ト考量仕候改約ノ事タル事ヲ概論スルニ必ツ先ツ英ヲ動カサ、ル可ラス英ニシテ承引セハ各國應セサル者ナカラシ若不承引ナラハ他國ニ就テ單ニ奏效シ難シ右ハ外交上大事件ナレハ全局ニ對シ后後ノ處置厚ク廟議ヲ被爲盡候事ト存候

明治十四年十月九日

特命全權公使 柳 原 前 光

井上外務卿殿

四二八

明治十五年三月十九日

柳原駐露公使ヨリ
井上外務卿宛

豫議會ニ於ケル露政府ノ態度ニ關スル件

十五年機密 第八號

兼テ數回演述候通り於當政府聊モ異議無ノ義ニ付各國中ノ最正理ニ近キ者ニ同シクスヘキノ意ヲ以テ唯他政府ノ議相當ノ處ニ歸着候ヲ望ムノ外無之候處英政府此度ノ論ハ餘リ利己ニ過候テ當政府ノ同意スルヲ得サル所ナレトモ此程日耳曼ヨリ打合有之分ハ右ニ同シカラザルノミナラズ昨年中同政府ノ論セル所トモ大ニ異ナリ是ナラバ於日本政府御承引相成トモ甚敷不利トハ相成間敷候故一タビシテ得サレハ二タビ三タビシテ之ヲ全クスルノ途ニ出ルモ其空シク止ムニ勝ルノ理ナレバ是トテモ日本政府元來ノ望ニ適セサル者タルハ論ナク當政府ノ望ム所ニモ適セス候得共昨年來當政府ヨリ諷諭シタル意ヲモ斟酌セル者ト見ユルニ付増稅ニ付増加スル收入ハ紙幣價格挽回ノ用ニ供スヘシ等ト云カ如キ眼ニ碍ルノ文字ナキニハ非サレトモ先是等ヲ以テ正理ニ近キ者トシ一應速ニ決シタル方利益ナルヘク思考スルニ付此邊ヲ斟酌シテ英日耳曼ヘモ可答内意ノ旨内話有之餘話ニ先年亞米利加トノ約ハ粗々完全ノ者トナリタレトモ其中「他國ニテ承諾スルナラバ」ト云フ語ヲ加ヘタル故切角ノ完全モ空言ニ屬シタリ必竟一度所失ノ利益ハ之ヲ恢復シ易カラサル者ニ付一タビシテ得サルハ二タビ三タビシテ之ヲ全ク

機密第三號信を以て條約改正之爲各國公使の會議御開相成候旨并に閣下及鹽田少輔右會議委員に被命候旨御申越承知いたし候當國外務卿代理ギリス氏亞西亞局長メルニコフ氏等へ右改約事件會議に付在日本露公使より報告等の景況間合候處歐洲各國多分は英獨と方向同一に出るの内約なれども露は之と反し其約束あることなく中には米國と協議を整ふること可有之旨内話有之候此段爲御參考密啓候也

十五年三月十九日

特命全權公使 柳 原 前 光

外務卿井上馨殿

註 1 機密第三號信ハ省略セリ十五年一月二十七日森公使宛ノ八五文書ハ内容同一ノモノナリ參照

四二九

明治十六年八月四日

花房駐露公使ヨリ
井上外務卿宛

豫議會ニ於ケル露國政府ノ態度ニ關スル件

機密信 第三十一號

瑞典國へ出立候ニ付當國外務卿ギールス氏亞細亞局長ゼノビエフ氏ヘモ特ニ面會致シ條約改定一條ニモ話及候處右ハ

スルノ途ニ出ルノ外有之間敷等慰諭ノ語氣ヲ含ミ到底露西亞ハ外國中最正理ニ近キ者ニ同シクスルノ意タルハ信用致シ吳候様トノ事ニ有之候右ハ兩人各種ノ面會ニテ言辭詳略ハ有之候得共大意同様ニテ近日右ノ意ヲ以テ返答相成隨テ東京駐劄公使ヘモ此意訓令相成候事ト存候ニ付併テ此段報告仕候敬具

明治十六年八月四日

特命全權公使 花 房 義 質

外務卿井上馨殿

四三〇

明治十六年十月六日

花房駐露公使ヨリ
井上外務卿宛

條約改正ニ關スル露國政府ノ内意申報ノ件

附屬書一 十六年九月十九日發花房公使來電

二 十六年九月二十四日到外務卿回電

機密 第三十三號

十月二十九日到

條約改正ニ付當國政府意見ノ大略ハ八月四日附ヲ以テ申進置其後瑞典國ヨリ歸來早々「ゼノビエフ」氏ヨリ内話ニ英佛獨等へ返答可致ニ付内談致度トノ義有之其節以電信申號

寫ノ通り及御答問候處乙號寫ノ通り御回答有之可成差延置度存候へ共追々英國ヨリモ催促有之歟ニテ猶豫難相成體ニモ相見候ニ付青木公使へモ打合候處於彼方モ獨逸ノミナラズ奥伊白等夫々盡力ナガラ未タ充分ノ成跡無之此際露西亞ニテ一層我意見ヲ賛成セバ或ハ効驗可有之歟トノ義ニ付即乙號電信御指揮ノ旨ニ青木氏意見ヲモ參酌シ「ゼノビエフ」氏ニ面晤イタシ英佛ノ議最不滿足ナルノミナラズ獨逸ノ提議ト雖モ未タ我意ニ滿タル者ニ無之段縷々相話シ於露西亞政府ハ終了期限ハ「コンデション」ナク承引相成度最惠國條ハ其舊約ノ「レシプロシチー」ヲ今一步進ミテ我所望ノ如ク「コンデション」ニスルヲ諾シ「アドミニストレーシヨ」權力恢復モ承諾ノ上他件一同他各政府へモ勸誘相成度意懇ノ談話候處露西亞政府ニ於テハ素ヨリ強テ異議無之候得共他國ノ不同意ニ對シ徒ニ異議ヲ唱ルヲ憚ル爲メ充分發論致兼候趣ニテ此後モ機會ヲ得ハ協賛スルヲ辭セス候へ共差向英佛獨ハノ返答ニハ稅則ハ其儘承引シ最惠國條ハ舊約ノ「レシプロシチー」ヲ其儘存スヘク其他ノ件々交隣ノ友誼ニ於テ現ニ故障ナカルヘキ分ハ可成日本政府ノ提議ニ異議ヲ容ル、ヲ欲セズトノ趣大略而已ニ致シ終了期限年

which of the two propositions is more desirable for our Government while he thinks French proposition is more advisable for us and promised another interview. I think it good opportunity to let Russia act in our favour. Give me, therefore, instruction as soon as possible.

Hanabusa.

附屬書二

乙號 十六年九月二十四日到外務卿回電

From Inouye to Hanabusa.

In my telegram of 20 instant¹ to Aoki and others, I asked certain question. Until its reply has been received, I cannot instruct you. Therefore, in the meantime, Thank Russian Foreign Office and endeavour to induce it to delay reply to English and German notes for some time. Read telegram above referred to. However, if any delay is impossible give your answer in accordance with my long telegram to Aoki and others of 18 instant².

Inouye.

註 1 及2 夫々三〇五附屬書一及三〇三附屬書一往電參照

本往電末段ノ言アルハ當時在歐諸公使館トノ電信ハ

井上外務卿時代 對露交渉 四三一

ノ如キモ此異議ヲ容ル、ヲ欲セサル部分ニ於テ不言中ニ承諾ノ路ヲ存シ置可申其餘ハ於東京會議ノ節可成日本政府ノ議ヲ協賛セシムル様駐東京公使へ委敷訓令致スヘシトノ事ニ有之尤モ返答書ハ内見ヲ許候筈ニ付尙其節多少ノ改正ヲ要望歟又ハ他ノ手數ヲ以テモ今一步相進メ候方略モ可有之候へ共兎角於歐洲ノ「ポリチカル」上關係ノ爲メ獨逸ニ向テ異議ヲ唱フルヲ憚ル事ト被察候ニ付獨逸ノ趣向不相變以上ハ於當政府モ充分發論難致義ト被存候先ハ不充分ナカラ現況一應ノ報告如此候敬具

明治十六年十月六日

特命全權公使 花房義實

外務卿井上馨殿

註 1 前掲四三一文書參照

附屬書一

甲號 十六年九月十九日發花房公使來電

I had interview with Zinovieff of Russian Foreign Office. He said that the Russian Government, regarding our treaty revision, received both French and German notes. And being desirous to answer them in accordance with our wishes, he asked me

一般ニ在露公使館ニテ取次キ居タル爲露部ニ於テハ
容易ニ知ラルヘカリシガ故ナリト思考ス

四三一 明治十六年十二月三十日 花房駐露公使ヨリ
井上外務卿宛

條約改正ニ關スル露國政府ノ學書寫送付ノ件

附屬書一 條約改正ニ關スル露國政府覺書

二 十六年十二月二十日發花房公使來電

條約改正ニ關スル露國覺書ニ關スル件

機密 第卅九號

條約改正ニ付當國政府意見ノ大略ハ本年十月六日機密三十六號¹ヲ以中進置候後大藏卿意見未定ノ旨ニテ遲延相成其實英獨等ノ意見轉化ヲ待ツノ意有之歟ノ模様ニ付徐ニ催促致居候處漸ク此頃大藏卿意見モ一定候由ニテ各國へ可差出回答モ粗相整候旨亞細亞寮頭ヨリ内話有之其大意稅則ハ東京會議ニテ委員ノ講定セル者ニ異存無之年限終了ノ事モ於當政府ハ更ニ異存無之其年限ノ如キハ唯衆議ニ從ヘク最惠國條ハ當國ト各國ト所締ノ貿易條約何レモ「コンデション」ナク「レシプロカル」タルヘキ事ニ相成居リ日本トノ現存條約モ其意ニ相成居リ候故今更ニ此意ヲ變スルヲ欲セス此

餘外國人ニ關スル裁判權行政權擴張ノ事モ同時ニ論及スルハ敢テ辭セサル所ナルヘク尤是等逐一各國ト共同議決スヘキハ勿論ナレトモ露國ハ日本ト最近隣國ナルヲ以テ特別ノ事情アリテ特別ノ取極メヲ要スル事ナシトスヘカラス云々」ニテ此末段ニ於テ會議席上好機アラハ日本政府ノ發議ヲ贊助スルノ地ヲ爲シ置可申トノ事ニ有之尙去十九日同人ニ面會候處右英佛獨等ヘノ回答ハ既ニ差出候由ニテ別紙寫佛文甲號内示候付右落手ノ段翌日以電信別紙乙號ノ通り書中ノ大意御報知申置候右書中ノ語句前文對話ニ比スレハ頗ル圓滑ニシテ且多少詳略モ有之候得共其主意ニ於テ相違ノ廉モ無之先以平生好意ノ言ニ背カサル事ト被存候尙原文ニ付テ詳悉御了會可被下候是ニ此結果ヲ報スルニ方リテ預メ改定事ルノ期遠キニ非サルヲナシ併テ一段ノ成功ヲ祝シ候敬具

明治十六年十二月廿二日

特命全權公使 花房 義 賢

外務卿井上馨殿

註 1 前掲文書參照

附屬書一

シ其細目ノ如キハ之ヲ修正スル事アルヘシ此修正ハ露日兩國間ノ貿易上ニ關係スル特別ノ事情アルヨリ起ルヘキモノニシテ且ツ此儀ニ付テハ我公使ハ東京ノ内閣ト豫メ協議ヲ開クヘキモノナリ

第二 最惠國ノ待遇ニ關スル箇條ニ付テハ豫議會ニ於テ議論一定セサリキ此一款ニ付テハ我國ノ主義ハ是迄歐洲各國ト締結シタル通商條約ニ因テ認定シ且ツ之ニ依リ締結國ハ互相ニ最惠國ノ待遇ヲ許容シ別ニ約束ヲ設クル事ナキヲ以テ我内閣ハ此主義ニ悖ル事ヲ欲セス

第三 凡ソ日本國ニ於テ締結シタル條約ハ或ル年限ノ終期ニ於テ之ヲ廢止スルノ權ヲ確認スル一款ヲ此後締結スヘキ條約中ニ挿入スル事ニ關シ日本政府ノ希望スル所ノモノハ我内閣ニ於テ之ニ同意スルモ更ニ妨ケナシ但シ該政府ハ其委員カ豫議會ニ於テ説明シ目今外國人カ日本國ニ於テ蒙ル所ノ制限ヲ廢止スルノ目的ニ出テタル寛大ノ趣旨ヲ誓テ實行セサルヘカラス條約施行ノ年限ハ締結國ニ於テ一應協議ヲ經タル上ニ非ラサレハ之ヲ決定スル事能ハス

貿易問題ノ決定ヲ目的トスル談判ノ外ニ我内閣ニ於テハ外國人ニ關スル司法及ヒ行政權ノ擴充及ヒ外國人ヘ與フ可キ

甲號譯文 條約改正ニ關スル靈國政府覺書

明治十六年十二月十九日亞細亞寮頭「ジノヴィエフ」

ヨリ花房公使ヘ内密ニ交付シタル覺書寫

覺 書

日本國ト他ノ締盟各國ト締結シタル條約ヲ改正スヘキ基礎ヲ審議センカ爲メ昨年東京ニ於テ開キタル豫議會ノ議錄ニ付テハ我帝國内閣ハ愈ラス之ヲ熟考シタリ之ニ因テ我内閣ハ日本政府於テ國內改良ノ事業ヲシテ鞏固ナラシムル事ニ絶ヘス努力シ且ツ彼我通商ノ更張ヲ幫助スルノ希望アル事ヲ知ルカ故ニ我意見ハ各國ニ於テ日本委員カ豫議會ニ於テ提出シタル議案ニ同意シ且ツ海關稅其他貿易ノ問題ニ關スル條約締結ノ事ニ傾向シ以テ日本政府ノ此志望ヲ獎勵スルハ乃チ各國ノ利益タルヘシ

各國ニ於テモ此趣旨ニ同意スルノ意向アル事ハ我内閣ノ信用スル所ナルヲ以テ之カ爲メニ我内閣ハ我公使ニ日本政府ト談判ヲ開ク事ヲ委任ス此談判ハ左ノ件々ヲ以テ基礎トスヘシ

第一豫議會ニ於テ提出シタル海關稅案ニ付テハ其要旨ハ各國委員ノ認諾スル所ナルヲ以テ我内閣ハ之ヲ承諾スヘシ但

保證ニ係ル日本政府ノ提案ヲ考按スルノ意アリ

他ノ各國ト責任ヲ共ニスル主義ハ東京豫議會ニ於テ我委員ノ方針タリシカ故ニ我内閣ハ之ヲ誠實ニ守ルトハ雖モ此後日本政府ト談判ヲ開クニ際シテハ露日兩國ハ最近ノ隣國タルヨリ生スル特別ノ事情及ヒ利害ヲ勘考セサルヲ得サルナリ

條約改正ニ關スル露國政府覺書寫

Mémoire

Le Cabinet Impérial n'a pas manqué de soumettre à un examen attentif les Protocoles de la Conférence qui s'est réunie l'année dernière à Tokio, à l'effet d'étudier les bases sur lesquelles pourrait être abordée la révision des traités conclus entre le Japon et les diverses Puissances. Cet examen lui ayant fourni une nouvelle occasion d'apprécier les efforts que le Gouvernement Japonais ne cesse de faire pour assurer l'oeuvre de la régénération du pays, ainsi que son désir sincère de contribuer au développement des rapports commerciaux, le Cabinet Impérial est d'avis qu'il serait de l'intérêt des Puissances d'encourager ces dispositions, en

adhérant à la proposition émise par le Délégué du Japon à la Conférence et tendant à la conclusion de conventions concernant le tarif et les autres questions commerciales.

Le Cabinet Impérial ayant lieu de supposer que les autres Puissances intéressées seraient disposées, de leur côté, à adhérer à ce principe, est prêt à autoriser son Représentant à Tokio à engager à cet effet des négociations avec le Gouvernement Japonais. Ces négociations pourraient avoir pour base les considérations suivantes :

1^o Le projet de tarif soumis à la Conférence ayant obtenu, en principe, l'approbation des délégués des Puissances, le Cabinet Impérial est prêt à l'accepter, sauf à y introduire des modifications de détail qui pourraient être réclamées par les conditions particulières qui régissent les relations commerciales entre la Russie et le Japon et sur lesquelles le Représentant du Gouvernement Impérial aura à s'entendre avec le Cabinet de Tokio.

2^o Une divergence d'opinion s'est produite à la Conférence de Tokio quant à la clause relative au

traitement de la nation la plus favorisée. A l'égard de cette clause le Cabinet Impérial désirerait ne point s'écarter du principe qui a été consacré par les traités de commerce conclus entre la Russie et les Puissances européennes et en vertu duquel les parties contractantes s'accordent, réciproquement et sans conditions, le traitement de la nation la plus favorisée.

3^o Pour ce qui est du désir du Gouvernement Japonais relatif à l'insertion dans les conventions à conclure d'une clause qui lui assurerait le droit de dénoncer, au bout d'un certain nombre d'années, les traités conclus par lui, le Cabinet Impérial ne verrait pas d'inconvénient à y donner son adhésion, si, de son côté, le susdit gouvernement s'engageait à donner suite aux intentions libérales dont son Représentant s'est rendu l'interprète à la Conférence de Tokio et qui auraient pour but de supprimer les restrictions auxquelles les étrangers sont, pour le moment, assujettis au Japon. L'étendue de la période durant laquelle les traités conserveraient leur force obligatoire ne saurait être précisée qu'à

la suite d'une entente entre les parties contractantes.

Indépendamment des négociations qui auraient pour objet le règlement des questions commerciales, le Cabinet Impérial est disposé à poursuivre l'examen des propositions du Gouvernement Japonais ayant trait à l'extension de ses pouvoirs judiciaires et administratifs à l'égard des étrangers, ainsi qu'aux garanties dont ceux-ci seraient appelés à jouir.

Tout en étant résolu à rester fidèle au principe de solidarité avec les autres Puissances, principe qui a réglé l'attitude de son Représentant à la Conférence de Tokio, le Cabinet Impérial ne saurait cependant éviter de tenir compte, dans les négociations qu'il aura à poursuivre avec le Gouvernement Japonais, des conditions et intérêts particuliers qui résultent du voisinage immédiat de la Russie et du Japon.

附屬書II

乙號 十六年十二月二十日發花房公使來電

(條約改正ニ關スル露國覺書ニ關スル件)

From Hanabusa to Inouye.

井上外務卿時代 對露交渉 四三三

St. Petersburg 20/12 1883.

Received confidentially a copy of Russian memorandum regarding Treaty Revision.

It accepts tariff in principle. It claims favored nation clause reciprocal without condition. It expresses that they have no objection to insert the denunciation-clause, if our Government will effectuate the liberal intention declared in Tokio Conference. It adds also the readiness to discuss upon the question of jurisdiction and administration over foreigners. Copy per mail.

四三三

明治十七年一月十三日

花房駐露公使ヨリ
井上外務卿宛

最惠國條款ニ條件ヲ附スルノ件

附屬書I

十六年十二月二十七日到花房公使宛往電

II 十七年一月二日發花房公使來電

機密 第五號

三月六日

條約改正ニ係ル露政府「メモランダム」ノ大意以電信申進候處十二月廿七日別紙申號寫ノ通り以電信最惠國條可成ハ「コンシメナル」ニ相成候様可致トノ義御申越ニ付即右

ノ意(當時外務卿ハ瑞西ニ旅行シテ不在中故)亞細亞局長ゼノビエフ氏へ談判候處折節「バロン ローゼン」モ出頭致シ此方ノ意見モ充分陳述候得共彼ノ答ニ露西亞國方今何レノ國ト結約候モ貿易上最惠國條ヲ「レシプロシチー」ニスレハ必ス「コンヂシヨシ」ナク之ヲ許スヲ約スルノ例(プリンスブル)ニ有之今此「プリンスブル」ニ背馳スルハ實ニ難爲ノ事ニ屬ス何トナレハ此「プリンスブル」獨リ各國ノ待遇ヲ平等ニスル爲ノミナラス自國ノ「タリフ」ヲ自國經濟ノ趣向ニヨリテ變更スルニ碍リナカラシムル爲ナレハ也此意ヨリスレハ於日本政府モ今若シ明ニ終了期限ヲ定ムルヲ得ハ更ニ貿易上各國ノ待遇ニ差異(ジスクリミナシヨシ)ヲ生スルノ意アルカ如キ條ヲ加ントスルハ或ハ好方便ト云難カラシムル歟尤裁判權ニ關シテハ自カラ殊別ノ情アリ殊別ノ方便アルヘキモ今日迄ニハ專ラ貿易上ニ付テ云タルヲ以テ不可不如此ヲ陳タル也トノ論ニテ到底不協ノ勢ニ候故此上ハ我所謂「コンヂシヨシ」ハ裁判權ニ關シ内地貿易ノ禁許ヲ云フニ在ル由ヲ明言スルノ外訓令ノ意ヲ達セシムルノ道無之候得共即今各國協議先ツ貿易ニ關スル條ヲ議スルニ決シタル際右不協ノ勢アル箇條ヲ強テ主張スル爲メ裁判

附屬書二

乙號 十七年一月二日發花房公使來電

From Hanabusa to Inouye.

St. Petersburg, 2/1 1884.

Russian Foreign Office informed me that with regard to the favored nation clause, Russian view means to be only confined to the part of tariff and not general as it has been proposed in Conference and they say the best they could do for us is reciprocal without condition, otherwise they deem it against the principle with which they have entered into the treaty with all other powers.

Would you instruct me whether, with conditional clause, you mean to include a matter of jurisdiction, notwithstanding the separate arrangement?

四三三

明治十七年五月八日 花房駐露公使ヨリ井上外務卿宛

露國政府訓令ノ大意内報ノ件

附屬書一

十七年五月六日附花房公使宛往電

露國公使ニ訓令方ノ件

二 十七年五月八日發花房公使來電

井上外務卿時代 對露交渉 四三三

權ノ事ニ議及候モ或ハ訓令ノ本意ニ有之間敷哉トモ被存候間尙此際ニ於ケル御趣意明了ニ伺ヒ度即本月二日乙號寫ノ通り「セバレートアルランジメント」ニ關ラス裁判權ノ事ニモ議及シテ「コンヂシヨナル」條ヲ得ルヲ要セラレ候哉否更ニ以電信御問合致シ尙青木公使ヘモ打合置候事ニ有之就テハ重テ御指揮モ可有之又可申進義モ可有之候得共右一應ノ御報知迄如此候也敬具

明治十七年一月十三日

特命全權公使 花房 義 賣

外務卿井上馨殿

註 1 前掲文書参照

附屬書一

甲號 十六年十二月二十七日到花房公使宛往電

From Inouye to Hanabusa.

Russian memorandum seems acceptable except favored nation clause which should be both reciprocal and conditional and you are therefore desired to propose to make it also conditional if possible.

Received 27/12 1883.

機密 拾九號

七月一日到

五月六日甲號寫ノ通り暗號電信接手候付即當外務省亞細亞局長「ジノビエフ」ニ面會致シ及問合候處條約改正一件委任ノ訓條ハ明日發途ノ新任書記官「スペイエル」氏ニ爲致携帶候同人ヲ如斯急ニ發途致サセルモ右訓條ノ速ニ東京ニ達スルヲ望ムニ外ナラス候故同人ハ亞米利加ヲ經テ途中滯留ナク參着可致善ニ有之件併談判開始ノ容易ナルヘキ様ニハ別ニ電信ヲ以テ訓令オヨフヘク其訓令ノ大意ハ稅則ハ其儘無異議承諾スヘキ事終了期限ハ「コンヂシヨシ」(外國貿易ヲ容易ナラシムヘキ方法ヲ設クヘキ事裁判法ヲ完全ナラシムヘキ事)ノ公言アラハ之ヲ條約ニ書載スルヲ要セスシテ承諾スヘキ事最惠國條ハ當國ニテ他各國ト結約スルノ定規ノ通り「コンヂシヨシ」ナシトスル事等ニ有之尤此「コンヂシヨシ」ナシト云フ事ハ稅額ノ多寡物品ノ禁許等凡テ貿易上ノ事ヲ云フニテ政權上ノ特許等ヲ云フニ非ス故ニ貿易以外ニ施政又ハ裁判ノ事ニ付此節或ハ此後談判アリテ他國ト特別ノ取極メアルモ露西亞ハ之ヲ「コンヂシヨシ」ナク受ントスルノ意ニハ無之トノ事ニ候

右ニ付本日以電信別紙乙號寫ノ通り露政府ノ訓條ハ書記官

「スバイエル」氏攜帶シテ明日發途可致乍併在日本露公使
ヘハ即時以電信訓令オヨフヘシトノ旨申進置候
右得貴意候也敬具

明治十七年五月八日

特命全權公使 花房義質

外務卿井上馨殿

附屬書一

甲號 十七年五月六日附花房公使宛往電

(露國公使ニ訓令方ノ件)

Tokio, 6/5 1884.

To Hanabusa.

Inquire Russian Minister for Foreign Affairs
whether they have already issued instructions to
the Russian Minister in Japan regarding pending
negotiations for treaty revision, if not, request him
to do so as soon as possible as other ministers
are receiving rapidly.

Inoue.

附屬書二

乙號 十七年五月八日發花房公使來電

St. Petersburg, 8/5 1884.

To Gaimukio,

Russian instructions will be soon telegraphed to
the Russian Minister in Japan, but as to the
detailed instructions will be sent by newly appoint-
ed secretary Legation Russia who leaves tomorrow
for Japan.

Hanabusa.

四三四 明治十七年五月十九日

花房駐露公使ヨリ
井上外務卿宛

我覺書ニ基キ條約改正交渉開始方ノ件

機密 第三十八號

十二月十七日到

貴機密信第拾號甲乙號覺書¹差添小松原書記官ヨリ致接手候
陳ハ英公使ブランケット氏ヨリ差出候覺書ニ對シ閣下ヨリ
不日英公使ヘ御差出可相成我政府意見書御差越相成右ハ我
方極度ノ讓與ヲ含有致居候故此主意ヲ駐在國政府其筋ヘ貫
徹候様盡力可致旨訓令相成致領承候付テ露外務卿ヘ面晤致
シ篤ク及談判候處同卿於テモ委曲閣下ノ主意ヲ會得致シ早
速在東京露國公使ヘ閣下覺書ノ主意ニ基キ商議致候様電信
ニテ訓令可致旨申出シ且ツ捺印全權ノ義ハ近々日本ヘ出起

ノ在橫濱露國領事官アレキサンドル、コーレミン氏ニ依托
シ送付可致旨返答致候ニ付其節談判ノ主意電報致置候間疾
ク御承知ノ事ト存候(以下省略)

明治十七年十月十九日

特命全權公使 花房義質

外務卿井上馨殿

註 1 甲乙號覺書トハ一一九及一一〇文書ノコトナルヘシ

尙二三文書參照

2 露國外務卿トノ談判ニ關スル電報見當ラズ

四三五 明治十九年三月九日

花房駐露公使ヨリ
井上外務大臣宛

條約改正會議露國代表正式任命方ノ件

附屬書一 十九年三月四日附花房公使宛往電

露國政府ニ代理公使宛訓令促進方ニ關スル

件

二 十九年三月六日發花房公使來電

十九年機密 第十二號

條約改正會議近日御閑キニ可相成ノ處在本邦露國臨時代理
公使「スペアー」氏ニ於テハ右條約改正ニ關シ未タ何等ノ

井上外務大臣時代 對露交渉 四三五

訓令モ接收シ居ラサル趣ニ付電信ヲ以テ同氏ニ訓令全權ヲ
付スヘキ様露國政府ヘ申込ム事并ニ新任露國公使シエウキ
イチ氏本邦ヘ到着ノ期日ノ儀ニ付本月四日別紙甲號ノ通閣
下ノ御電信ヲ接收候ニ付右露外務省ヘ申入候處同六日亞細
亞寮頭ヨリ右件ハ故ダビドウ公使ニ付與シタル訓令全權ヲ
以テ改正會議ニ參スヘキ旨昨日電信ヲ以テ相達シタルトノ
事通知有之又シエウキイチ氏ハ羅馬ニ於テ家事取纏方ニ付
彼是時日相掛リ今ニ該府ニ滞在イタシ來ル四月下旬ナラテ
ハ歸府致シ得ス候ニ付早クモ五月末ナラテハ日本ヘ向ケ出
發シ得サルヘシトノ事返答有之候依テ即日別紙乙號ノ通閣
下ヘ向ケ電報相發シ候儀ニ有之候此段申進候也

十九年三月九日

在露國

特命全權公使 花房義質

外務大臣伯爵井上馨殿

附屬書一

甲號 十九年三月四日附花房公使宛往電

(露國政府代理公使宛訓令催促方ニ關スル件)

Hanabusa

Speyer says not yet received any instruction regarding treaty revision. Conference will be shortly opened. Ask Russian Government to send necessary instructions and full powers by telegraph. Telegraph definite date of Scheviche's arrival here.

Inouye

Tokio, March 4 1886.

附屬書二

乙號 十九年三月六日發北房公使來電

Gaimusho,

Tokio.

Zinovieff says the Russian Chargé d'Affaires in Japan was instructed by telegraph yesterday to attend the conference with the same instructions and powers given to late Russian Minister in Japan. New Russian Minister to Japan still in Rome. Will leave here not earlier than end of May.

Hanabusa

St. Petersburg, March 6 1886.

ク冀望スル所ナリトノ事ニ有之候間小官ニ於テモ頗ル同感ノ旨ヲ述ヘ且其電報ヲ説キ示シ吳候厚意ヲ謝シ致退出候尙又本日亞細亞局長「ジノウキエフ」氏ニ面接ノ序ヲ以テ條約改正ノ近況ニ付何ソ聞込候義モ無之哉ト相尋候所在日本佛國公使ハ其後本國政府エ意見上申ニ及ヒ目下往復中ト傳聞セリ且同氏ニ於テモ各國皆同意シテ速ニ調印ノ運ニ至ラシ事希望ニ不堪トノ旨申聞候

右ノ次第ナレハ露政府ニ於テハ英獨ノ新按ニ對シ大ニ贊成ノ意アルハ明白ニ有之且條約改正ノ件ニ付テハ在東京臨時代理公使ヨリ時々詳細ノ電報接收致居候モノト推察被致候「セーウキチ」氏モ彌本月三日ヲ以テ當地出發十八日馬港出帆ノ郵船ニ搭シ赴任ノ筈ニ候同氏トハ出發前屢々往來種々談話モ承リ候同氏今般ノ登用ニハ極テ満足ノ様子ニ候得共條約改定會議ニ列席セサル事ハ實ニ終身ノ遺憾ナリト兼テ申居候所頃日同氏外務大臣「ギールス」氏ニ面會ノ節同大臣ノ見込ニテハ改定條約調印ニ至ル迄ニハ今ヨリ六ヶ月乃至一ヶ年ノ時日ヲ要スヘシトノ旨ヲ得タル由ニテ速ニ赴任セハ調印ハ勿論會議ニモ列スル場合アラント別ニ臨ミ得色ヲ帶ヒ相話シ候又「ギールス」大臣ニハ同氏ノ赴任ニ

四三六

明治十九年七月八日

岩倉臨時代理公使ヨリ
井上外務大臣宛

英獨ノ新提案ニ對スル露國政府ノ意向内報ノ件

附屬書 十九年六月二十三日發岩倉代理公使來電

機 第十四號

過日外務次官「ウランガリー」氏ヲ訪問シ談偶々條約改正ノ件ニ涉リ同官ニハ今般英獨兩全權委員ヨリ提出セシ新按ニ關シ頃日在東京臨時代理公使「スベイエル」氏ヨリ詳細ナル電報ヲ得タリトテ其電報ノ大意ヲ説キ示シ吳候所其意味ハ閣下ヨリ在外各公使エ御發電相成候所ト同様ニ候得共同時同官ノ言ニ當政府ニ於テハ此新案ニ對シ毫モ異存無之候故速ニ同意贊成スヘキ旨既ニ「スベイエル」氏エ返電セリ且「スベイエル」氏ハ其兼テ受領致居候所ノ訓令ニ基キ各國學テ同意ヲ表スル時ニ於テ改定ノ條約ニ記名調印スルノ全權ヲ有セリトノ事ニ付即日右大意別紙寫ノ通り發電仕置候將又其砌リ同次官ノ内話ニ在日本佛國公使ハ英獨公使ヨリ提出セシ新案ニ對シ異論ヲ申立タリト聞ケリ乍去全權委員ノ多數ハ新案贊成者タレハ其勢力必佛公使ノ異論ヲ壓倒スルニ至ルベキハ余ノ言ニ信シテ疑ハサルノミナラス深

際シ一モ新訓令ヲ與フルノ要ヲ見ス嘗テ「スベイエル」氏ニ付シ置キタル者ヲ單ニ遵奉スヘシトノ命令アリシニ付大安心ナリト談笑致シ候是ハ日本政府ニ對シ何等不同意ヲ表スヘキ不詳ノ訓令ヲ受ス仕合ナリト云フ意ニ解セラレ候
(後略)

右爲御參考申進候敬具

明治十九年七月八日

在露國臨時代理公使 岩 倉 具 經

外務大臣伯井上馨殿

註 英獨提案ニツイテハ一四七附屬書五參照

附屬書

十九年六月廿三日發岩倉代理公使來電

(英獨ノ新提案ニ對スル露國政府ノ意向内報)

From Iwakura to Inouye.

Vice-Minister for Foreign Affairs tells me that they have already sent telegram to the Chargé d'Affaires in Japan that they have no objection to the Anglo-German proposal and can sign the treaty provided all the powers agree to it.

Russian Minister to Japan leaves Marseilles July

19.

St. Petersburg, 23/6 1886.

四三六 明治二十年二月九日 露國公使ヨリ
井上外務大臣宛

露國入判事採用ニ關スル件

Tokio, 9th February 1887.

Dear Count,

Baron Holleben told me that you had promised him to write to me a letter concerning the judges of Russian nationality to be engaged on Japanese service as referred by me to Mr. Aoki on the 15th ultimo.

I beg therefore to remind you of your obliging promise, in the hope that you will kindly send me the promised letter, in order that I should be able to forward a private copy of it to Mr. de Giers.

with my best thanks
yours faithfully
Schévitch.

四三八 明治二十年二月十日 井上外務大臣ヨリ
露國公使宛

露國入判事採用ニ關シ回答ノ件

10 February 1887.

My dear Mr. Schévitch.

In respect to the question of the eventual choice of nationality of judges to be engaged in the service of Japanese Government, which was re-ferred by you to Mr. Aoki on the 15th ultimo, let me inform you in strict confidence that the Japanese Government intends to take into consideration the Russian nationality on the same footing as Italian or Austrian nationalities.

I remain
my dear Mr. Schévitch,
Yours truly
Signed (Inouye Kaoru)

四三九 明治二十年二月十一日 露國公使ヨリ
井上外務大臣宛

露國入判事採用ノ件

Tokio, the 11 February 1887.

My dear Count,

I beg to acknowledge receipt of your letter of yesterday by which you kindly communicate to me, in respect to the question of the eventual choice of nationality of the judges to be engaged in the service of Japanese Government, as referred by me to Mr. Aoki on the 15th ultimo, the intention of the Imperial Government of Japan to take in consideration the Russian nationality on the same footing as Italian and Austrian nationalities.

I shall not neglect to forward to my Government your obliging communication and beg you in the meanwhile to accept my best and sincerest thanks for your kind information.

I remain, my dear Count, with the highest consideration,

Yours sincerely
Schévitch.
to H. E. Count Inouye &c. &c.

四四〇、明治二十年二月十四日 露國公使ヨリ
井上外務大臣宛

接露國ニ關スル留保規定輸入ガノ件

N. 113 Tokyo, 22 June 1887.
4 Juillet

Monsieur le Ministre,

Conformément aux instructions que j'ai reçues de mon Gouvernement j'ai l'honneur proposer à Votre Excellence qu'indépendamment des stipulations générales du Traité de Commerce et de Navigation à conclure entre le Japon at chacun des Puissances représentées à la Conférence, il soit inséré dans le Traité qui sera conclu entre le Russie et le Japon une clause spéciale contenue dans l'article suivant:

Art..... "Les relations commerciales de la Russie avec les Royaumes de Suède et de Norvège et les Etats et pays limitrophe de l'Asie étant réglées par des stipulations spéciales concernant le commerce de frontière et indépendantes des réglemens applicables au commerce étranger en général, les deux Hautes Parties contractantes conviennent que les dispositions spéciales contenus dans le traité passé entre la Russie et la Suède et la Norvège le

26 avril 1838, ainsi que celles qui sont relatives au 8 Mai commerce avec les autres Etats et pays ci-dessus mentionnés, ne pourront, dans aucun cas, être invoquées pour modifier les relations de commerce et de navigation établies entre les deux Hautes Parties contractantes par la présente Convention.”

Je m'empresse d'ajouter que cette réserve a été introduite sous la forme susindiquée dans tous les Traités récemment conclus par la Russie.

En portant ce qui précède à la connaissance de Votre Excellence, je crois devoir la prévenir que, si elle jugeait opportun de le faire, je n'aurais aucune objection à ce que les autres Plénipotentiaires siégeant à la Conférence soient informés de ma proposition.

Veillez, agréer, Monsieur le Ministre, l'assurance de ma plus haute considération.

Schévitch,

Son Excellence

Monsieur le Comte K. Inouyé &c. &c.

四四一 明治二十年七月五日 井上外務大臣ヨリ
露國公使宛

接獲國ニ關スル留保規定挿入ニ關シ回答ノ件

Tokio, le 5e jour du 7e mois
ed la 2ne année de Meiji.

Monsieur le Ministre,

En réponse à votre lettre du 22 juin 1887, j'ai 4 juillet

l'honneur d'informer Votre Excellence que je ne vois aucune objection à insérer, dans le Traité, qui sera définitivement conclu entre le Japon et la Russie, la clause spéciale proposé par vous, c'est à dire :

“Art.....Les relations commerciales de la Russie avec les Royaumes de Suède et de Norvège et les Etats et pays limitrophes de l'Asie étant réglées par des stipulations spéciales concernant le commerce de frontière et indépendantes des réglemens applicables au commerce étranger en général, des deux Hautes Parties contractantes conviennent que les disposition speciales contenues dans le Traité passé entre la Russie et la Suède et la Norvège le 26 avril 1838, ainsi que celles qui sont relatives au 8 mai

commerce avec les autres Etats et pays ci-dessus mentionnés, ne pourront modifier les relations de commerce et de navigation établies entre les deux

Hautes Parties contractantes par la présente Convention.”

Quant à la communication de cette proposition aux autres Plénipotentiaires, je suis d'avis qu'il n'est nullement nécessaire de la faire à présent. En con-

séquence je crois préférables due l'arrangement en question ne soit pas mentionné à la Conférence.
Veillez agréer, Monsieur le Ministre, l'assurance de ma haute considération.

(Signé) Inouye Kaoru.

Son Excellence

Mr. Schévitch

&c. &c. &c.

第八節 對 米 交 涉

四四二 明治三十四年四月二十四日 米國公使ヨリ
井上外務卿宛

假定輸入税則ニ對シ異議申立ノ件

第一千二百〇五號

以書翰啓上致候陳ハ税則目錄中ニ設ケラレタル區別ノ不當不公ニ對シ異存可申立旨我政府ヨリ被達候趣ハ已ニ本月十二日閣下ト御對話ノ砌御通知致置候就テハ昨年十二月三十一日迄半ケ年間日本國ノ外國貿易報告中ニ英國ヨリ該期內日本ヘ輸入ノ英國產ノ價額ハ一千萬圓ニシテ同期內我合衆

國ヨリ我國產ノ輸入高ハ僅ニ百三十二萬九千圓ノ高ニ有之ニ反シテ英國ヘ日本ヨリ內國產ノ輸出ハ全計三百一十一萬五千圓ニシテ同期內合衆國ヘ該產ノ輸出高ハ全計六百七十六萬七千圓ニ有之候然レハ合衆國ヘ日本內國產ヲ購買スルノ高ハ日本ヘ合衆國產物ヲ購買スルノ高ニ五倍シ且英國ノ日本ヨリ購買スル高ニ比スレハ合衆國ノ購買高ハ二倍ノ多キニ至リ又之ニ反シテ英國ニテ其國產ヲ日本ニ販賣スルノ高ハ英國ノ日本產物ヲ購買スル高ニ三倍致候將又英國ヨリ日本ヘ輸入ノ物品中過半ハ棉線竝ニ綿布ニ有之然シテ合衆